

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
北海道ハイテクノロジー専門学校	昭和62年12月4日	塩野 寛	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-1 (電話) 0123-36-8119																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人産業技術学園	昭和63年1月5日	宮川 藤一郎	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-1 (電話) 0123-36-8119																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども保育学科	平成6年 文部科学大臣告示84号	-																							
学科の目的	多様化する様々な保育・福祉サービスに対応できるだけでなく、社会人としても優れた人材育成を目指し、将来同分野において第一線で活躍できる専門職を育成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2775時間	1140時間	1365時間	270時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
150	50	0	3	31	34																						
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価 49点以下不合格、50点以上合格 A:80点以上、B:60点台、C:50点台、D:40点台、E:39点以下																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月29日～8月21日 ■冬季:12月23日～1月21日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し履修する事が、進級・卒業の要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・面談・訪問等で保護者と連携		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 幼稚園、保育園、福祉施設のボランティア ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 社会福祉施設全般、幼稚園、保育園 ■就職指導内容 就職ガイダンス・履歴書・面接指導・キャリア教育 ■卒業生数 17 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭に種免許状</td> <td>①</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事(任用)資格</td> <td>①</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士資格	①	—	—	幼稚園教諭に種免許状	①	—	—	社会福祉主事(任用)資格	①	—	—	精神保健福祉士	③	10	1
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
保育士資格	①	—	—																								
幼稚園教諭に種免許状	①	—	—																								
社会福祉主事(任用)資格	①	—	—																								
精神保健福祉士	③	10	1																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 5.5 % 平成29年4月1日時点において、在学者 55名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 52名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更 体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 サポートアンケートの実施、面談など、個別対応・相談など学校全体で中退学者0%への取り組みを行っている。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 兄弟姉妹・保護者特待生制度、卒業生特待生制度、単位減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.hht.ac.jp/">https://www.hht.ac.jp/</a>																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 各業界と連携を図り現在おかれている業界の状況、動向について理解し業界が必要とする人材を育成するべく、通常講義と合わせて同等数の実践カリキュラムを編成し即戦力となる人材を養成する。また、対人援助職として幼児教育者、福祉職としての資質の向上を目的とし各対象となる利用者の気持ちに寄り添い一人ひとりの個別の状況に応じた対応ができるようにコミュニケーション力、対人援助職としてのカウンセリングマインド高められる科目を導入し、専門的な知識や技術だけでなく、業界が求める人物像である主体性や人間力を合わせ持つ専門職を養成するカリキュラムを連携企業の意見を参考に編成する。															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成30年9月1日現在															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前田 元照</td> <td>一般社団法人 札幌市立幼稚園連合会 会長</td> <td>平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>清水 敏博</td> <td>医療法人社団 慶心会 介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長</td> <td>平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	前田 元照	一般社団法人 札幌市立幼稚園連合会 会長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	①	清水 敏博	医療法人社団 慶心会 介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	③
名前	所属	任期	種別												
前田 元照	一般社団法人 札幌市立幼稚園連合会 会長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	①												
清水 敏博	医療法人社団 慶心会 介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	③												
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>															
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年間開催数:2回 開催時期:7月及び2月 (開催日時) 平成29年度 第1回 平成29年7月18日 14:00～15:30 平成29年度 第2回 平成30年2月8日 14:00～16:00 平成30年度 第1回 平成30年8月29日 13:00～15:00 平成30年度 第2回 平成31年2月15日 13:00～15:00 (予定)															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 見通しを持って行動する、意欲や積極性、探究心を持って学ぶ。失敗してもチャレンジすることの大切さや忍耐力等、人格形成の基礎を培う子ども達の保育にあたる職業であることへの理解を自覚していくことが課題。保育の現場のみならず、どの分野の職業でも責任感と誠実さが大事であり専門的な学習に合わせてプラスアルファで指導いただきたいです。															
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 理論で学んだことを実際の現場で経験し専門職としてのさらなる知識、技術を学ぶ場とするだけでなく、社会人としての一般的なルールやマナー、保育・福祉職としての人間性や道徳観を学ぶ場とし、チームで業務にあたる大切さを実感させる場とする。また現場実習を通し学生自身の次の課題の発見の機会とし業界の評価を基にさらなる知識、技術の向上を図ることを目的とする。															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 現場実習における総合的な指導。各年齢に沿った指導案の作成と実践を通して保育の実際や自身の課題発見につなげる。また、乳幼児に対する専門的な関わりのほかに保護者や地域の方への支援の在り方についての理解を深める。															
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅰ</td> <td>保育所での養護と教育のを一体的に行う重要性や保育における実践力の向上また、地域における子育て支援や保育所の役割、機能について体験的に学ぶ</td> <td>島松いちい保育園 恵み野保育園 他</td> </tr> <tr> <td>保育実習Ⅲ</td> <td>児童福祉施設、社会福祉施設の中で何らかの問題や課題を抱える家庭や個人に対して自立に向けた支援の在り方や自立に向けた支援計画の在り方、他職種との連携について体験的に学ぶ</td> <td>恵庭光と風の里 千歳いずみ学園 他</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	保育実習Ⅰ	保育所での養護と教育のを一体的に行う重要性や保育における実践力の向上また、地域における子育て支援や保育所の役割、機能について体験的に学ぶ	島松いちい保育園 恵み野保育園 他	保育実習Ⅲ	児童福祉施設、社会福祉施設の中で何らかの問題や課題を抱える家庭や個人に対して自立に向けた支援の在り方や自立に向けた支援計画の在り方、他職種との連携について体験的に学ぶ	恵庭光と風の里 千歳いずみ学園 他			
科目名	科目概要	連携企業等													
保育実習Ⅰ	保育所での養護と教育のを一体的に行う重要性や保育における実践力の向上また、地域における子育て支援や保育所の役割、機能について体験的に学ぶ	島松いちい保育園 恵み野保育園 他													
保育実習Ⅲ	児童福祉施設、社会福祉施設の中で何らかの問題や課題を抱える家庭や個人に対して自立に向けた支援の在り方や自立に向けた支援計画の在り方、他職種との連携について体験的に学ぶ	恵庭光と風の里 千歳いずみ学園 他													
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係															
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ①北海道私立幼稚園協会、札幌市私立幼稚園連合会の主催する研修会、会合に参加し、現場の実際を学ぶと共に業界との連携を深め、現場と養成校の現状の課題や今後の取組等についてより連携を図る。 ②担任研修、カウンセリング研修、FD研修等を実施し各担任のクラス運営力やマネジメント力、学生のサポートスキルの向上を図る。															
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成30年8月24日 新保育指針・教育要領について ②指導力の修得・向上のための研修等 平成30年7月24日 平成30年度 文部科学大臣認定職業実践専門課程に係る研修 「職業意識を高めるコミュニケーション」															
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成30年12月 北私幼「就職・実習・内定後の現場研修について」 ②指導力の修得・向上のための研修等 学内における担任研修等への参加															

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校の特色は何か</li> <li>・学校の将来構想を抱いているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか</li> <li>・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</li> <li>・意思決定システムは確立されているか</li> <li>・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか</li> <li>・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</li> <li>・カリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか</li> <li>・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・教員の専門性を向上させる研修を行っているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制はあるか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか</li> <li>・資格取得率の向上が図れているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか</li> <li>・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己点検自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

子校関係者評価は年に1度実施している子校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し子校運営に活かすべく方針を決定している。

業界・地域の新しい動きをリードする産官学協同教育を柱とした教育環境の提供を推し進める。

1. 早期から専門性に触れられる(アーリーエクスポージャー)カリキュラム構成にする。
2. 模擬患者演習、業界との共同研究をカリキュラムに取り入れることにより、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進する。
3. 創造力を育む異分野交流学习の仕組みを創り、実行する初年度とする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 主任	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	卒業生代表
松本 晴美	学生の保護者	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校 教諭	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	高等学校関係者
早坂 貴敏	恵庭市議会議員	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	地域関係者
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院 事務長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
松本 耕二	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者
真鍋 淳	医療法人社団 マナベ矯正歯科 理事長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 平成29年7月

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけるとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価による

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180731.pdf>

別紙様式4

<https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

法人決算書及び監査報告書

[https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629\\_01.pdf](https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_01.pdf)

[https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629\\_02.pdf](https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_02.pdf)

学校関係者評価委員会報告書

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018071901.pdf>

学校関係者評価結果及び改善方策

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018022302.pdf>

### 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども保育学科 ) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			学習基礎講座	数理科、国語力等、今まで身につけてきた一般学力をより高めていく事を目的とし以後の専門カリキュラムの理解度のアップにつなげる。試験によって評価する。	1前	30	1		○		○				○	
○			コミュニケーション技法	コミュニケーションの基本である、見る・聴く・話す・読む・書く力を身につけ、自己理解・他者理解への梨花を進め、これから始まる専門教育の学習の基盤となる心構えを学ぶ。試験で評価する	1前	15	1	○			○				○	
○			講読演習Ⅰ	社会の仕組み、社会人としてのマナーを実際的な題材をもとに学習する。	1通	30	1		○		○				○	
○			講読演習Ⅱ	社会の仕組み、社会人としてのマナーを実際的な題材をもとに学習する。	2通	30	1		○		○				○	
○			講読演習Ⅲ	社会の仕組み、社会人としてのマナーを実際的な題材をもとに学習する。	3通	30	1		○		○				○	
○			卒業研究/実習研究	今までの学習の集大成として個人又はグループで各コース毎にまとめを行う。論文によって評価する。	3通	120	4		○		○				○	
○			パソコン	現代社会のOA化に対応できるようになることを目標とする。特に基本的な操作については確実に学ぶ。試験によって評価する。	2前	30	1		○		○				○	
○			家庭支援論	現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、特にその人間関係のあり方を理解する。レポート及び試験によって評価する。	2前	30	1		○		○				○	
○			日本国憲法	基本的人権の尊重・国民主権・平和主義の原則を日本国憲法の基礎として考察する。試験によって評価する。	1前	30	1		○		○				○	
○			情報処理入門Ⅰ	コンピュータの歴史、種類、仕組みなど基本的なことを理解する。試験によって評価する。	1前	15	1		○		○				○	
○			リトミックで遊ぼう	音楽表現における子どもの発達と発達種家に応じた音楽遊びについて理解するとともに保育者に必要な柔軟にとんだ発想力・表現力・指導力を育てる。実技試験によって評価する。	2後	30	1		○		○				○	
○			児童家庭福祉	現代における児童福祉の理念を踏まえてその原理・政策の実際を理解把握する。試験によって評価する。	2前	30	2	○			○				○	





○		人体の構造と機能及び疾病	人の成長と発達、疾病・障害の概要、国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方を学ぶ。試験によって評価する。	1前	30	2	○			○		○	
○		心理学理論と心理的支援	心理学の概要を理解させ、人間理解とその技法の基礎と概要について理解させる。試験によって評価する。	1前	30	2	○			○			○
○		社会理論と社会システム	現代社会及び生活の理解、人と社会の関係を学び、社会問題を理解する。試験によって評価する。	3前	30	2	○			○			○
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉需要、自立支援プログラム等について理解する。試験によって評価する。	2後	30	2	○			○			○
○		地域福祉の理論と方法	地域福祉の基本的な考え方、組織、団体、専門職の役割等について理解する。試験によって評価する。	3通	60	4	○			○			○
○		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者を取り巻く現状を理解すると共に、障害者にかかわる法体系、障害者自立支援制度について学ぶ。試験によって評価する。	2後	30	2	○			○			○
○		社会保障	社会保障の理念と意義、わが国の社会保障制度の概要を学ぶ。試験によって評価する。	3通	60	4	○			○			○
○		権利擁護と成年後見制度	社会的排除、相談援助活動、成年後見制度や行政や民法との関わりについて理解する。試験によって評価する。	2後	30	2	○			○			○
○		保健医療サービス	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割及び連携と実践等について学ぶ。試験によって評価する。	3後	30	2	○			○			○
○		福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制や福祉計画の意義、目的、主体、方法、留意点等について理解する。試験によって評価する。	3前	30	2	○			○			○
○		精神疾患とその治療	精神医学の歴史と概念、代表的な精神障害や診断法、治療法について学ぶ。試験によって評価する。	3通	60	4	○			○			○
○		精神保健の課題と支援	精神保健の基礎知識を習得し、ライフサイクルや地域保健の関連において理解を深める。また、今後の精神保健のあり方を考える。試験によって評価する。	3通	60	4	○			○			○
○		伝承遊び手遊び・わらべうた	子どもの発達と絵本や紙芝居などに関する知識と技術を学び、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財とを結びつけた遊びの展開について学ぶ。試験によって評価する。	1前	15	1	○			○			○
○		マジックスクール	子ども、高齢者等、それぞれの視点に立った演出方法や技術を習得する。試験によって評価する。	1後	15	1	○			○			○
○		作って遊ぼう	廃材を使っておもちゃの製作遊びや季節の壁面製作に取り組む。作品提出によって評価する。	1後	15	1	○			○			○

○		あそびのシアター	ハンカチシアター、紙コップシアター、ペーパーバックシアター等、様々なシアターを学び、制作し、実演する。提出物及び試験で評価する。	3前	30	1		○	○		○		
○		お遊戯	各年齢の発達段階にそった動きや表現方法、曲の選定や衣装、道具の製作や効果的な使用について学習する。試験によって評価する。	2後	30	1		○	○		○		
○		手作り布おもちゃ	布の素材感をいかし手作りのおもちゃの製作に取り組む。作品提出によって評価する。	3後	30	1		○	○		○		
○		福祉事務管理	社会保障制度全般について学び、介護保険制度の理解や介護保険医療請求事務についての理解を深める。試験によって評価する。	2通	45	3	○		○				○
○		障害者スポーツ論	障害者スポーツの全般について学びその必要性、役割について理解を深める。試験によって評価する。	3通	30	2	○		○		○		
○		保育実習事前指導	実習生としての基本的な心構え、マナーを身につけ実習に対する問題意識を高める。試験及び提出物によって評価する。	1後	30	1		○	○		○		
○		保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	実習生としての基本的な心構え、マナーを身につけ実習に対する問題意識を高める。試験及び提出物によって評価する。	2前	15	1	○	○		○		○	
○		保育実習事前事後指導Ⅱ(施設)	実習生としての基本的な心構え、マナーを身につけ実習に対する問題意識を高める。試験及び提出物によって評価する。	2後	30	1	○	○		○		○	
○		保育実習事前事後指導Ⅲ(施設)	実習生としての基本的な心構え、マナーを身につけ実習に対する問題意識を高める。試験及び提出物によって評価する。	3前	15	1	○	○		○		○	
○		教育実習事前事後指導	幼児教育者として求められる目標を達成するために現場での幼児との関わり方を理解する。試験によって評価する。	2前	15	1	○	○		○		○	
○		スクーリング生涯スポーツ	運動が健康に影響する諸因子を理解し、ライフスタイルに合わせた高齢者に対する健康増進や障害者に対するスポーツについて理解する。試験によって評価する。	3前	30	1		○	○		○		
○		スクーリング社会的養護内容	養護原理をふまえ児童福祉施設における目的と機能、プログラム展開等児童処遇の実際を理解する。レポート及び試験によって評価する。	2後	15	1	○		○		○		
○		スクーリング相談援助	社会福祉の概念を学ぶ福祉施設の現状と制度等の問題点を考える。目的・意識を理解する。試験によって評価する。	3前	15	1		○	○		○		
○		スクーリング情報処理入門Ⅰ	コンピュータの歴史、種類、仕組みなど基本的なことを理解する。試験によって評価する。	1前	15	1		○	○		○		
○		スクーリング健康(指導法)	子どもの全面的な発達を促すために人間の身体、健康それに関わる環境についての理解。試験によって評価する。	1前	15	1		○	○		○		







		○	レクリエーション	多くの種類の遊びやゲームを通して、レクリエーションの理論を学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	1		○	○				○
		○	レク理論	レクリエーションの歴史や具体的な指導法について理論的に学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	1		○	○				○
		○	自然と遊ぼう・レク	身近な花や昆虫の名前や飼育方法など、自然に関する知識を深め、子どもたちの興味関心や探求心を刺激するなど保育実践の中に生かす。提出物・レポートにより評価する。	1 後	15	1	○		○	○	○		
		○	作業音楽療法・レク	音楽を通じたリハビリテーションの機能や理論のついて実践的に学ぶ。実技試験で評価する。	3 後	15	1	○		○				○
		○	幼児体育指導	幼児における運動の必要性と運動と発達の寒けについて学ぶ。また、運動指導の際の安全についても学ぶ。試験によって評価する。	3 前	15	1	○		○				○
		○	介護職員初任者研修	介護の本質、役割について学び、援助の方法を学ぶ。試験によって評価する。	2 前	195	13	○		○	○	○	○	○
合計						99	科目	2775時間(140単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し履修する事が、進級・卒業の要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	25週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。